

両側精巣上体平滑筋腫の1例

国立大阪病院泌尿器科 (医長 : 高羽 津)

今津 哲央, 高山 仁志, 月川 真, 辻村 晃

菅尾 英木, 高羽 津

国立大阪病院病理部 (部長 : 倉田明彦)

竹田 雅司, 倉田 明彦

奥田泌尿器科

奥 田 暲

A CASE OF BILATERAL EPIDIDYMAL LEIOMYOMAS

Tetsuo Imazu, Hitoshi Takayama, Makoto Tsukikawa,

Akira Tsujimura, Hideki Sugao and Minato Takaha

From the Department of Urology, Osaka National Hospital

Masashi Takeda and Akihiko Kurata

From the Department of Pathology, Osaka National Hospital

Noboru Okuda

From the Department of Okuda Urological Clinic

A case of bilateral epididymal leiomyomas is reported. A 62-year-old man was referred to our hospital under the suspicion of left testicular tumor. A small hen-egg sized painless mass was palpated in the left scrotum and a little-finger-tip-sized mass in the right scrotum. At the operation, bilateral epididymal tumors were revealed, left high orchiectomy and right epididymectomy were performed. Gross evaluation revealed elastic hard tumors at the tail of bilateral epididymes. The left tumor was 40 mm in diameter and the right was 10 mm. On the cut surface, the tumors were yellowish and solid. Histopathologically they were diagnosed as epididymal leiomyoma. We reviewed 75 cases of epididymal leiomyoma reported in the Japanese literature. Bilateral cases accounted for 21% of the 75 cases.

(Acta Urol. Jpn. 40: 435-437, 1994)

Key words: Bilateral epididymal leiomyomas

緒 言

精巣上体に発生する腫瘍は比較的稀である。われわれは、陰嚢内の無痛性腫瘍を主訴とした、両側精巣上体平滑筋腫の1例を経験したので報告する。

症 例

患者 : 62歳, 男性

主訴 : 左陰嚢内無痛性腫瘍

家族歴 : 特記すべきことなし

既往歴 : 52歳より甲状腺機能亢進症・高血圧にて内服治療中

現病歴 : 1993年4月上旬, 左陰嚢内の無痛性腫瘍を主訴に奥田泌尿器科を受診し, 左精巣腫瘍を疑われ手術目的で当科へ紹介された。

現症 : 左陰嚢内に, 鶏卵大で表面平滑, 弾性硬の無痛性腫瘍を触知した。また右陰嚢内にも小指頭大の無痛性腫瘍を触知した。表在リンパ節に腫脹はなく, 他に理学的所見に異常を認めなかった。

検査成績 : WBC 11,200/mm³ と白血球増多があり, CRP 0.96 mg/dl と軽度上昇を認めたが, 他に血液生化学に異常を認めず, AFP・CEA・HCG・β-HCG・CA19-9・NSE などの腫瘍マーカーは正常であった。検尿では, 潜血・糖・蛋白, いずれも (-), 沈

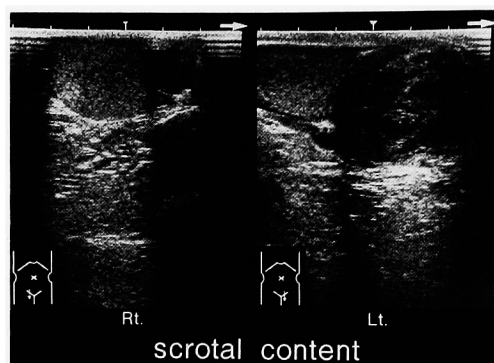


Fig. 1. Ultrasonogram of bilateral scrotal contents. The mass shows mixed pattern.

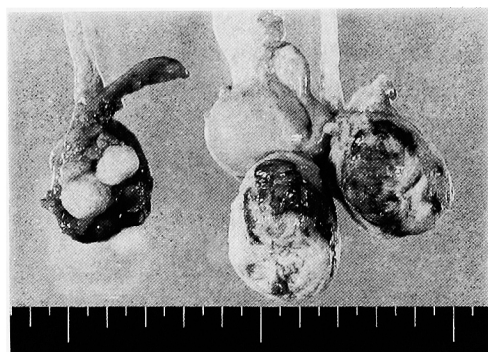


Fig. 2. The cut surface of bilateral resected specimens. The yellowish solid tumors are present at the tail of the epididymis.

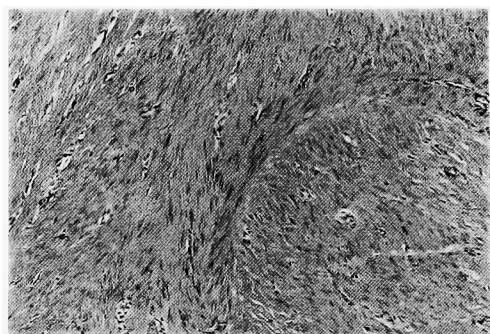


Fig. 3. Microphotograph shows interlacing bundles of smooth muscle cells. (HE stain)

渣で、RBC 1~2/F, WBC 2~3/F であった。

画像診断：IVP では異常を認めなかった。陰嚢部の超音波検査では、左陰嚢内に hyperechoic な部分と hypoechoic な部分が混在する約 4×3 cm の腫瘤を認め、その頭側に正常と思われる精巣実質が描出された。右陰嚢内にも約 1 cm 大の腫瘤が同様に描出された (Fig. 1)。

以上より両側精巣腫瘍と診断し、1993年4月22日、手術を施行した。左陰嚢内容を脱転したところ、腫瘤は精巣上体尾部に存在していたが、約 4 cm と大きいため、高位精巣摘除術を施行した。摘除物を迅速病理標本として検査したところ悪性所見はなく、平滑筋腫と診断されたため、右に関しては精巣上体腫瘍であることを確認した上、精巣上体摘除術を施行した。腫瘍は弾性硬で、両側とも精巣上体尾部に存在しており、大きさは左が 4×3×3 cm、右が 1 cm、断面は淡黄色、充実性で、左は出血を伴っていた (Fig. 2)。

病理組織学的には両側とも同一の組織像で、腫瘍は spindle cell よりなり、これが束状構造を形成しつつ交錯していた (Fig. 3)。悪性所見は見られず、両側精巣上体平滑筋腫と診断された。

術後経過は順調で19日目に退院し、6カ月を経た現在、再発、転移の徴候を認めていない。

考 察

本邦における原発性精巣上体腫瘍は、1989年、清水ら¹⁾が250例を集計しているが、これによると、196例 (78.4%) が良性腫瘍であり、なかでも平滑筋腫は、精巣上体良性腫瘍中56%を占める adenomatoid tumor について多く、27%を占める。これは、欧米での6~8%という報告²⁾に比べてきわめて多い。本邦では、田辺ら³⁾の集計した58例のうち重複例1例を除いた57例の他、17例^{1,4-17)}が報告されており、自験例は75例目と思われる。

以下本邦報告75例91腫瘍について検討を加える。年齢は、14歳から84歳、平均50.7歳で中高年に多い傾向がみられた。患側は、左31例 (41%)、右26例 (35%) で、両側性のものが16例 (21%) みられた。発生部位は、91腫瘍中75腫瘍 (82%) が尾部であり尾部が好発部位と思われた。手術術式では、精巣上体摘除術が41腫瘍 (45%) と最も多いが、最近では腫瘍摘出術が施行されることも多く、31腫瘍 (34%) を占める。しかし、精巣上体腫瘍の約20%が悪性であることを考慮すると、精巣上体摘除術が望ましいとする意見もある¹⁸⁾。また、精巣摘除術は13腫瘍 (14%) であった。

両側例は75例中21%を占め、自験例は両側例としては16例目にあたる。両側例について検討したところ、年齢は28歳から80歳で、50歳代が多いものの、20歳代30歳代がそれぞれ2例づつあり、比較的若年にも発症していると思われた。発生部位ではやはり、32腫瘍中30腫瘍と圧倒的に尾部が多かった。主訴は、陰嚢内の無痛性腫瘤が多数を占めたが、不妊を主訴としたものも2例あった。精巣上体結核と診断されたものも3例

認めた。しかし精巣上体結核の減少と診断技術向上のためか、1979年以降、結核と診断された症例は報告されていない。術前に精巣腫瘍と診断されたものは、自験例のみであった。手術術式では精巣上体摘除術が最も多く腫瘍摘出術がそれに続く。精巣摘除術は3例5腫瘍に施行されているが、前立腺癌のために施行された例を除くと、自験例を含めて比較的大きな腫瘍に施行されているようである。自験例では、左は腫瘍が約4 cmと大きく、悪性腫瘍の可能性も考慮したため精巣摘除術を施行し、右は精巣上体摘除術を施行した。

本疾患は文献的に、再発や悪性化の報告はなく、予後はきわめて良好であると思われる。

結 語

62歳の男性にみられた両側精巣上体平滑筋腫の1例を報告し、本邦報告両側例16例について、若干の文献的考察を加えた。

本論文の要旨は、第144回日本泌尿器科学会関西地方会において発表した。

文 献

- 1) 清水弘文, 土屋 哲, 草間 博: 副睾丸平滑筋腫の1例. 泌尿器外科 2: 171-174, 1989
- 2) Broth G, Bullock WK and Morrow J: Epididymal tumors. J Urol 100: 530-536, 1968
- 3) 田辺徹行, 西本憲治, 川下英三, ほか: 副睾丸平滑筋腫の1例. 西日泌尿 53: 255-257, 1991
- 4) 岩瀬 豊, 阪上 洋, 津ヶ谷正行, ほか: 精巣上体平滑筋腫の2例. 日泌尿会誌 77: 860, 1986
- 5) Yokoyama M, Seki N, Takeuchi M, et al.: Epididymal leiomyoma: A case report. Nishinohon J Urol 50: 949-950, 1988
- 6) 山田典子, 荒木勇雄: 副睾丸平滑筋腫の1例. 日泌尿会誌 79: 394, 1988
- 7) 原 繁, 富岡 進: 副睾丸平滑筋腫の2例. 千葉医誌 64: 135, 1988
- 8) 小山雄三, 小倉秀章, 知念善昭, ほか: 副睾丸平滑筋腫の1例. 西日泌尿 50: 1667-1670, 1988
- 9) 土屋清隆, 清水嘉門, 松下 磐, ほか: 副睾丸血管平滑筋腫. 臨泌 43: 626-628, 1989
- 10) 秦 亮輔, 飯泉達夫, 矢崎恒忠, ほか: 原発性両側副睾丸平滑筋腫の1例. 泌尿紀要 35: 1247-1249, 1989
- 11) 志村英俊, 井田時雄: 両側副睾丸平滑筋腫の1例. 日泌尿会誌 80: 632-633, 1989
- 12) 岡沢敦彦, 寺田洋子, 上谷恭一郎, ほか: 副睾丸の脂肪平滑筋腫の1例. 日泌尿会誌 81: 657-658, 1990
- 13) 平野章治, 川口正一, 美川邦夫, ほか: 精巣上体平滑筋腫の1例. 西日泌尿 52: 1611-1613, 1990
- 14) 保科 彰, 松本純一, 永野道夫, ほか: 精巣上体平滑筋腫の1例. 西日泌尿 53: 1065-1066, 1991
- 15) 矢野彰一, 和田瑞隆, 西田 勉, ほか: 精巣上体平滑筋腫の1例. 臨泌 46: 785-786, 1992
- 16) 堀田浩貴, 田仲紀明, 塚本泰司, ほか: 精巣上体平滑筋腫の1例. 西日泌尿 54: 1101-1103, 1992
- 17) 金岡俊雄, 児玉修一, 野々村光生, ほか: 副睾丸平滑筋腫の1例. 神戸病紀 31: 89-91, 1992
- 18) 杉本俊門, 早原信行, 森川洋二, ほか: 原発性副睾丸平滑筋腫の1例. 泌尿紀要 27: 443-449, 1981

(Received on November 4, 1993)
(Accepted on January 7, 1994)